

コラージュ制作における色のついた台紙の影響

橘 玲子¹⁾・長谷川早苗¹⁾・赤塚なつみ¹⁾・運上 司子¹⁾
上野あゆみ²⁾・布施 直美²⁾・中村 協子³⁾

- 1) 新潟青陵大学大学院
- 2) 河渡病院
- 3) 新潟大学

キーワード：コラージュ表現、彩色台紙、集団法

Influence of Pasteboard Using Color on Collage Expression

Reiko TACHIBANA¹⁾, Sanae HASEGAWA¹⁾, Natumi AKATSUKA¹⁾, Shisako UNJO¹⁾
Ayumi UENO²⁾, Naomi FUSE²⁾, Kyoko NAKAMURA³⁾

- 1) Graduate school of Niigata Seiryō University
- 2) Kodo Mental Hospital
- 3) Niigata University

Key words : collage expression, color-pasteboard, group

コラージュ制作において、台紙の色を自由に選択する方法で行ったところ、白い台紙を選択する参加者が非常に少なく、中でも黒い台紙が好んで選ばれることに気がついた。台紙については森谷（2012）のコラージュの実施法でA4、あるいはB4という大きさの大まかな指示はあるが、標準はないようである。さらに、台紙の色彩についての報告は岸井（2002）によってなされているが、今までのところきわめて少ない。白い台紙が標準と暗黙のうちに了解されているのであろうが、しかし、制作者の表現の自由さや動機付けを考えると、台紙の色彩についての検討があっても良いと思われる。長谷川（2011）のディケアで長期間にわたって行われたコラージュにおいても、多くは白であったが、色彩のある台紙を選んだ作品も見られた。病理がある場合には、台紙の大きさや台紙の色彩には十分な配慮が必要なことは言うまでもないことである。そのことをわかった上で、この度、臨床心理士を目指す大学院生やすでに臨床を行っている参加者がグループで継続的に制作したところ、予想を超えて黒や紺の台紙を使用し、白い台紙を使用する参加者が少なかったため、資料から台紙の色彩についてまとめることとした。

方法

参加者は臨床心理学研究科の院生と臨床心理士です。すでに臨床家として活動し、コラージュ療法に関心のある27名である。年齢は23歳から30歳代が中心で（60歳代までも若干入る）、ほとんど女性であり、男性は3名であった。

集団法で実施し、3つのグループに分かれて9名前後の集団で、ほとんどの参加者は同じ時間帯のグループに所属していた。1回3時間程度で、制作と作品の鑑賞を参加者と世話人とでおこなった。制作にはほぼ1時間40分前後、あとは鑑賞会とした。期間は約2ヶ月間に3回、さらに数ヶ月後、再び2ヶ月の間に三回行っている。参加者は27名で、顔見知りであるものが多かったため、集団はかなり自由な雰囲気であったが、すでに報告したように（橘、2014）、終了後の感想で、集団での鑑賞会に緊張したという報告もあった。なお、世話人は2人から3人で制作に集中できるような配慮を行っている。

実施方法はマガジン・ピクチャー・コラージュ法で、台紙はB4、A5を準備し、台紙の色彩は黒、灰色、紺、青、薄青、緑、薄緑、赤、桃色、橙、ベージュ、紫、薄紫などを揃えた。なお、参加者の貼

りたいパーツは持ち込み可とした。

結果

全作品数は107枚。用紙の大きさはB4を使用した参加者が圧倒的に多かった。

台紙の色彩について、参加回数と色彩の台紙について個別的に例示したのが表1である。この表によると総計27名のうち、白の台紙を利用した参加者はわずかに11名で、後の17名は様々な色彩の台紙を用いていた。また、全作品枚数107枚中、白の台紙は18枚(16.8%)に過ぎず、後の89枚(83.2%)は色彩のあ

表1. 参加者による制作回数と台紙の色彩

氏名	制作回数							色彩										作品数
	1回	2回目	3回	4回	5回	6回	7回	白	黒	グレー	ベージュ	紺	青	薄青	モスグリーン	緑	赤	
F1	ベージュ	ベージュ	白	青	空白	ベージュ		6	2	0	0	2	0	1	0	0	0	0
F2	ベージュ	ベージュ	グレイ	紺	空白	モスグリーン		6	0	0	1	2	1	0	1	1	0	0
F3	黒	黒	白	白	白	赤		6	3	2	0	0	0	0	0	0	0	1
F4	黒	不明	不明	ベージュ	紺	ベージュ		6	0	1	0	2	1	0	0	0	0	0
F5	黒	紺	白/黒	黒/白	白	黒		6	3	4	0	0	1	0	0	0	0	0
F6	モスグリーン	黒	黒	黒	黒	モスグリーン	赤	7	0	4	0	0	0	0	2	0	1	0
F7	薄紫	紫	薄青	薄青	黒			5	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0
F8	黒	ベージュ	黒	黒	ベージュ			5	0	3	0	2	0	0	0	0	0	0
M9	オレンジ	ベージュ	紫	モスグリーン	青			5	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0
F10	グレー	黒	グレー	ブルー				4	0	1	2	0	0	1	0	0	0	0
F11	モスグリーン	オレンジ	灰色					3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0
F12	紺	黒	モスグリーン					3	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
F13	白	黄色	紺					3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
F14	白	濃紺	オレンジ					3	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0
F15	紺	薄いピンク	モスグリーン					3	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0
F16	薄いブルー	濃い緑	黄色					3	0	1	0	0	1	0	0	1	0	0
F17	黒	グレー	グレー					3	0	1	2	0	0	0	0	0	0	0
F18	ブルー	オスグリーン	濃紺					3	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0
M19	オレンジ	青/赤	紺					3	0	0	0	0	1	1	0	0	0	1
F20	白	薄ブルー	黄色					3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
F21	ピンク	白	白					3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F22	白	白	青					3	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0
F23	青	青	白					3	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0
F24	黒	黒	赤					3	0	2	0	0	0	0	0	0	0	1
F25	黒	赤	ブルー					3	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1
F26	白	黒	肌色					3	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
M27	黄色	白	ピンク					3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0
制作枚数								107	18	23	6	10	10	9	4	8	2	5
人数								27	11	13	4	6	10	8	3	7	2	5

る台紙であった。このうち多かった台紙の色彩は黒が最も多く23枚で、白の台紙よりも多かった。続いてページ10枚、紺10枚、青9枚、薄緑8枚、灰6枚であった。紺が限りなく黒に近いことを考えると、黒と紺を合わせると33枚となり、約3分の1が黒ないし紺による背景の暗さを使っている。なお、1回目の台紙の色彩で白は5名、黒は7名だったので、集団内での作品の鑑賞会によるシェアリングとはあまり関係ないと考えられた。

コラージュの制作回数と台紙の色彩についてまとめたのが、表2である。

表2. 制作回数・人数と台紙の色彩

	制作回数	白	黒	ページ	濃紺	青	モスグリーン
人数	4回以上	3	7	5	3	3	3
	3回以下	8	6	1	7	5	4
枚数	4回以上	8	16	9	3	3	2
	3回以下	10	7	1	7	6	4

表2には作品数と使用した人数を台紙の色彩ごとにまとめた。台紙のすべての色彩ではなく使用される頻度の多いものをこの表に示した。台紙の色彩は作品制作回数4回以上と、3回以下で比較してみると違いがあることがわかった。白の台紙は3回以下の参加者に8人と多く使われており、枚数も18枚中10枚が3回の人たちであった。このことは参加回数が少ない上に、白の台紙に枚数が多いことから、参加回数の少ない者に白の台紙が多いと言える。それに対して黒の台紙は、使用者は7人と6人で半々くらいであったが、制作枚数についてみると4回以上は16枚、3回は7枚であった。単純に考えれば参加回数が2倍なので、黒の台紙は全体にかなり一定の比率で使われていることがわかる。ページは4回以上の人に6人中5人に使用され、10枚のうち9枚が4回以上の出席者であった。3回の参加者はほとんどページの台紙が用いられなかった。白の台紙の特徴と併せて考えると、4回以上の参加者には白に変わってページを用いているとも推測された。濃紺の台紙は4回以上よりも3回の制作者に10人中7人が使用しており、3回の参加者は暗い背景の効果に濃紺を用いていることが考えられる。なお、普通の青も濃紺と同じ傾向があった。

薄緑についての差は見られなかった。

台紙の色彩については、通常白の台紙が用いられている。描画法にもたぶん白い台紙が常識的であろう。しかし、描画とは異なり、アウトラインがカラー

ジュにおいてははっきりとするので、色彩のある台紙でも色彩や形による表現の明快さは保たれると言える。さらに、コラージュにおいては経過中に数枚が他の描画法よりも多いと思われるので、自己表現の自由さを考えると台紙の色彩を白だけに限定することは、もう少し検討して良いのではないかと思われる。特に今回の結果から83%に白の台紙以外が用いられていることは、今後の課題として、台紙とそこに制作されるイメージの検討を行い、台紙によって制作に影響があるかどうかなど明らかにするべきであろう。特に心理療法で用いられるとするならば、むしろ台紙の色彩はクライアントの理解に意味があるのではなかろうか。今回の継続的制作においても台紙の色彩は、作品の理解に示唆を与えるものがあったという印象であった。

他者との比較などが要求される、例えばアセスメント機能を重視するなどであるならば、台紙の色彩は白と決めた方が良くもしいない。箱庭療法では砂色の砂だけではなく白い砂も準備されている。砂による箱庭作品の特徴について触れた研究もあるので、コラージュについても色彩の使用について注目をしておくことも意味があろう。

謝辞

この調査は平成26年度新潟青陵大学学内協同研究費（代表者、故長谷川早苗に代わり橘 玲子）の助成を受けて行われたものです。

参考文献

- 岸井 謙児（2002）：『色と枠による画面構成がコラージュ表現に及ぼす影響について（その1）——台紙における色のコラージュ表現へ及ぼす影響——』日本芸術療法学会誌33巻1号 pp22-29
- 長谷川早苗（2011）：『統合失調症事例の作品変化-コラージュグループ鑑賞会の意義をふまえて-』コラージュ療法学研究第2巻第1号 pp3-15
- 橘 玲子（2014）：『連続的に行ったコラージュ制作過程について』新潟青陵大学大学院 臨床心理学研究第7号 pp21-27
- 森谷寛之（2012）：『コラージュ療法実践の手引き その起源からアセスメントまで』金剛出版